

『宇宙開発の未来』

突然ですが、皆さまは人工衛星を見たことがあるでしょうか。

私は、4～5年まえに見たことがあるのです。

九州の温泉旅館で、露天風呂に入って満天の星空を眺めていた時に、上空を流れ星がゆっくりと流れていくのです。「ながればし」と

云うと、隣の人が「あれは人工衛星だよ」と教えてくれたのです。

「へえー、人工衛星って見えるんだ」と始めて知りました。

後で調べてみると、やはり国際宇宙ステーション (ISS) だったのです。

この夏は、地球と火星が最も近づく 26 か月に一度のチャンスなので、各国の探査機が火星を目指して挑戦しています。現在、宇宙開発の最前線で何が起きているので

しょうか。



先日、北海道で民間のロケットが打ち上げに成功したとのニュースを見ました。

驚いたことに、その場に堀江貴文氏が写っていたのです。堀江氏は、実業家なのでどうしてこの様なところに顔をだしているのかと不思議に思いました。

しかし現在、誰でも宇宙へ行ける時代を実現するために、テクノロジーとビジネスの時代が始まっていることを知りました。

世界の宇宙開発の歴史は大きく3つにわけられるそうです。

最初の時代は 1957 年の、ソ連によるスプートニク1号の打ち上げにはじまる、東西冷戦の時代です。アメリカとソ連は宇宙でも競争を続けていました。

この時代は、1991 年のソ連崩壊で終わります。次の時代は国際宇宙ステーションに象徴される、アメリカ、ロシア、日本、ヨーロッパ、カナダが共同で国際宇宙ステーションの建設と運用に取り組み、日本とヨーロッパも高い宇宙技術を持つようになった時代です。

この、2番目の時代の終わりを告げる出来事が、2011 年のスペースシャトルの退役です。

この後、世界の宇宙開発に新たなプレーヤーが登場します。

中国が有人宇宙飛行に成功し、アメリカではスペース X やブルー・オリジンのような企業が宇宙に参入してきたのです。

こうして、今は3番目の時代が始まっています。

2020 年は、「宇宙観光元年」となり、民間の宇宙船による宇宙旅行が本格化することになります。

世界初の商業宇宙旅行実現に臨んできたのは、ヴァージン・ギャラクティック社です。

この会社が行おうとしている宇宙旅行は、弾道飛行で、放物線の軌道で地上から 100Km の宇宙空間まで達し、その後地上に戻ってくる計画です。宇宙空間で無重力環境を体験できるのは約5分間だが、乗客は宇宙からの風景を満足できるでしょう。すでに、多くの人が予約しています。今

後、月の往復などさまざまな宇宙旅行が計画されています。もう一つの、ビジネスは人工衛星の分野で、キーワードは「コンステレーション」です。コンステレーションとは星座との意味ですが、この場合は軌道の上に展開された多数の小型衛星群のことをいいます。

先駆社のワンウェブは最終的には 2000 機の衛星を打ち上げる計画です。

多数の小型衛星による低軌道のコンステレーションによって、極地も含め世界中のどのような地域でも、アンテナがあればインターネットを利用することが出来、地上の解像度は 30cmにまで上昇します。

今後、海上の船舶を追跡・監視するシステムや、多様な地球を観測する衛星が打ち上げられる予定です。

最後に、さきほどの5分間の宇宙旅行の料金はどれほどだと思いませんか。3000 万円だそうです。

3000 万円あれば、私などは、豪華客船による世界一周旅行を夫婦で楽しむ方がいいかなと思います。